

■ 第34回 多摩川流域セミナー

多摩川の川づくり総点検！ 第一弾！！ ～多摩川の堤防 今・昔～

主催：多摩川流域懇談会

平成13年3月に「多摩川水系河川整備計画」が策定されて、今年で10年目を迎えます。今までの10年間で多摩川にはどんな変化があったのでしょうか。今年度の多摩川流域セミナーは、そんな多摩川の10年を振り返り、今後のよりよい川づくりに向けた話し合いを行います。

第一弾として、今回は多摩川の堤防について、みんなで考えてみましょう。

● 日時

・・・平成22年6月19日（土）13時00分～17時10分（予定）

第34回多摩川流域セミナー
「多摩川の川づくり総点検！ 第一弾!!」
～多摩川の堤防 今・昔～

平成13年3月に「多摩川水系河川整備計画」が策定されて、今年で10周年を迎えます。今年で10周年で多摩川にはどんな変化があったのでしょうか。今年度の多摩川流域セミナーは、そんな多摩川の10年を振り返り、今後のよりよい川づくりに向けた話し合いを行います。第一弾として、今回は多摩川の堤防について、みんなで考えてみましょう。

日 時：平成22年6月19日（土）13時00分
場 合：平間駅(旧)旧さご会館 会議室
場 所：川崎市 下丸子スーパー堤防、マシノ川堤防（川崎）
参加費：200円（仮払料など）
持 ち 帰：お弁当、菓子、清涼（自費）、タオル
【参加費の1割は、多摩川流域懇談会に寄付します！】

◆当日のプログラム◆
◆13:00 集合・開会式◆
◆13:10～13:30 現地見学◆
◆13:30～17:00 ディスカッション◆
◆17:10 終了予定時間◆

◆当日の主な場所◆(17:10以降)
◆当日の主な場所◆(17:10以降)

川崎市 下丸子スーパー堤防
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館

川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館

川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館
川崎市 平間駅(旧)旧さご会館

● プログラム

◇ 13時00分

JR南武線「平間駅」集合

◇ 13時10分～15時30分

現地見学（平間駅より徒歩で八幡神社へ。八幡神社での小講義のあと、有吉堤を見学し、その後バスで移動します。）

【現地見学ポイント】

1. 有吉堤 ⇒ 2. 下丸子スーパー堤防 ⇒ 3. レンガ堤（羽田地区）

◇ 15時30分～17時00分

ディスカッション（川崎市役所第4庁舎（旧いさご会館）にて）

◇ 17時10分

終了予定時間

※ ディスカッション終了後、川崎市役所第4庁舎にて解散となります。

● 問い合わせ先

・・・多摩川流域懇談会事務局 NPO法人多摩川エコミュージアム

TEL.FAX.044-922-1025  <http://www.seseragikan.com>  npo@seseragikan.com

■ 第34回 多摩川流域セミナー 開催報告

「多摩川の川づくり総点検！ 第一弾！！」～多摩川の堤防 今・昔～【その1】

主催：多摩川流域懇談会

2010年(平成22年)6月19日(土)、多摩川の堤防にスポットをあてた第34回多摩川流域セミナーを開催しました。

早いもので「多摩川水系河川整備計画」が策定から今年で10年目になります。今年の流域セミナーでは、先の10年間の活動を振り返りつつ、今後のよりよい川づくりに向け治水・利水・環境などのスポット巡りながら、参加者のみなさまとの意見交換を行っていきたいと思います。

1. JR平間駅に集合

6月19日(土)午後1時、多摩川に近いJR南武線平間駅に集合しました。雨の予報でしたが当日は曇り空ながら、時折青空も顔を覗かせ、申し込みされた方もほぼ全員が集まりました。これから5分程歩いて、アミガサ事件の舞台になった八幡神社へ向かいます。



2. 開会のあいさつ

駅から歩いて多摩川のそばに建つ八幡神社の境内で開会となり、TBネットの中村文明さんから、このセミナーは、整備計画が策定されてから10年目の今年、堤防の今と昔について現地を見て歩き、治水をテーマにご意見をいただく会にしたいと開会のあいさつがありました。本日のセミナーの説明として、見学箇所は、「八幡神社・有吉堤・下丸子のスーパー堤防・下流のレンガ堤」など明治から平成の堤防整備を見学した後、みなさまとディスカッションを行いたいという説明がありました。



八幡神社に到着



開会あいさつがありました

3. 八幡神社(川崎市上平間)

早速、1つめの見学箇所である、八幡神社について地域史研究家の長島保先生から小講義がありました。八幡神社は、多摩川の改修のきっかけとなったアミガサ事件の際の集合場所であり、アミガサを被った

人々は、ここを出発して、神奈川県庁まで歩いて向かったとのこと。アミガサ事件は、広く全国に伝えられ、全国的な河川改修促進運動のきっかけにもなったそうです。長島先生は、現在、アミガサ事件のモニュメントを、この八幡神社に立てる活動もされているとのことでした。



長島先生による小講義



八幡神社の脇を通り、有吉堤へ

4. 有吉堤(川崎市上平間)

八幡神社から、住宅街を少し歩くと川側から少し高くなった道路にたどり着きます。ここが有吉堤です。ここでも、長島先生からお話がありました。有吉堤は、長い間水害に悩まされてきた地域の人々によって起こされた「アミガサ事件(大正3年9月)」をきっかけに、当時の県知事である有吉氏により築られました。

有吉堤は、無堤であった地区を通る群道を高くする「群道改修工事」として整備が進められました。工事の途中で内務省から工事中止の命令が下され、有吉知事が懲戒処分を受けることもありました。工事は大正5年9月に終了しました。その後の竣工式で、知事への感謝を表し「有吉堤」と命名されたそうです。



少し高くなった道路が有吉堤です



今も残っている有吉堤

ここで、当日参加された方からの質問を紹介します。

(Q) 市民の強い要望に応じて堤防の整備を進めている有吉知事は、なぜ懲戒処分を受けなければならなかったのか？

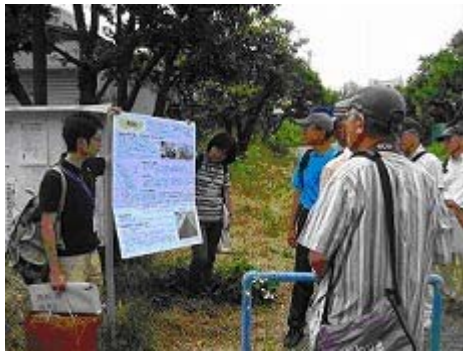
(A) 本来堤防の整備は国が実施すべきものであるのに、地方の長である県知事が実施したため、河川法違反に値するという事だった。

(Q) 東京側の反対で工事が中止になったとあるが、それは川崎側を高くすると東京側が洪水になるからなのか？

(A) そういうことになる。治水、利水の両方とも、地域の利害関係が生ずるため、地域ごとに様々な歴史がある。

長島先生の小講義はとても興味深く、参加された方々は熱心に耳を傾けていました。次は、バスに乗っ

て対岸のスーパー堤防まで移動しました。



5. スーパー堤防(大田区下丸子)

スーパー堤防の事業について、坪谷調査課長から説明がありました。スーパー堤防は、今までの堤防を強くしたもので、破堤を防ぎ、地震にも強い構造になっています。堤防の幅を広くして、堤内側を緩やかな斜面にしているのです。万が一計画を越えるような大洪水が起きた場合でも、斜面を緩やかに水が流れるため、壊滅的な被害は避けることができることなどの説明がありました。

参加された方からの質問に答えて、自治体の土地区画整理事業などの事業があれば、自治体や土地を持っている方にスーパー堤防の整備に同意していただいているため、整備には長い期間を必要となること。通常の堤防との違いなど

についても、説明がありました。



下丸子のスーパー堤防の整備では、整備前にあった桜並木の保全について地域の方々と話し合い、桜をスーパー堤防の上へ移植したり、新しく植樹も行ったそうです。その結果、桜の名所として雑誌にも取り上げられているということでした。

その他、にぎわいのある河畔空間の創出促進(河川敷地占用に係る社会実験)について、石川管理課長から説明がありました。イベント施設やオープンカフェの設置など、水辺空間を活かした地域づくりを行うための取り組みだそうです。



スーパー堤防の断面がわかります



スーパー堤防上に植えられた桜

6. レンガ堤(大田区羽田)

レンガ堤については、山口副所長から説明がありました。レンガ堤は、大正7年～昭和8年にかけて多摩川の第一期改修が行われたときに整備された防潮堤です。大正6年に台風による高潮被害が起きたため整備されました。今は一部しか残っていませんが、当初は、六郷水門まで整備される予定だったそうです。



レンガ堤の構造は、金森式レンガといってレンガに鉄筋を入れて強度を上げた構造になっています。方式の名前になった金森氏は当時の内務省のお役人で、京浜河川事務所の2代目と4代目の所長でした。同様の金森式レンガで作られた構造物は、六郷水門と川崎側の河口水門があります。昭和38年に新しい計画がつくられ、レンガ堤防の前に堤防を整備することになりました。この堤防は、平成元年に着手、平成3年に完成しています。



今も残るレンガ堤



鉄筋が入っているのがわかります

7. 意見交換会場(川崎市第4庁舎)に到着

レンガ堤見学の後、バスに乗って意見交換会場となる川崎市役所第4庁舎に到着。車内ではあらかじめ参加者のみなさんに、意見交換までに質問・意見・提案カードの記入をお願いしていました。約20名の方にご協力いただけましたので、以下にその一部をご紹介します。

- 今回は、下流域の設備の一端をうかがい知る良い機会となりありがとうございました。
- スーパー堤防を1つ見せてもらいましたが、防災上も環境上からも進展させるべきものと考えますが、実施された延べ長さは、いまだ少ないと思われます、計画を更に協力で推し進めてもらいたい。現時点の実績と計画の数値も参考に知りたい。
- 洪水や水害をのりこえ、より安全性を求めてきた先人の闘いの苦労をしのぶ痕跡を残し、伝承していくことに努めたいと思った。水との闘い、治水の方法は、その時代を反映している。そのことを考えると興味

深い。

- 機会があれば、江戸期から明治・大正までの多摩川の水害の実態などをお聞かせいただければと思いました。
- 昔の構造物は、その時代を感ずるものがある。現代のものには、そういったものがあまり感じられない気がする。ゆとりなども必要ではないだろうか。

8. ディスカッション

ディスカッションでは、意見カードのご意見をもとに、現地見学の感想や質問について発表していただきました。意見カードには、スーパー堤防に関するご意見やご質問が多数ありました。

・スーパー堤防整備の効果がいまいち理解できない。スーパー堤防と従来型の堤防のつぎはぎの効果はどうなるのであろう。

・スーパー堤防を一つ見せてもらいましたが、防災上も環境上からも進展させるべきものと考えられますが、実施された長さはまだ少ないと思われれます。計画をさらに強力に押し進めてもらいたい。

・スーパー堤防はかつてよりは理解が進んでいるように思いました。とはいえ、それだけでは片づかない問題も多く、総合的な新たな制御が必要な時代になったとの感を強くしました。

などのご意見・ご質問です。

これらの質問を受けて「スーパー堤防の整備に至るまでの経緯」について坪谷調査課長(京浜河川)から説明がありました。

参加された方からは、有吉堤がつくられた頃は市民の強い意志により堤防がつくられているが、現在のスーパー堤防では市民からの要望はどうか等の質問がありました。これに対し、スーパー堤防に関する要望は直接ないとのことでした。その理由として、現在は堤防整備を進めてきた結果、洪水による被害が少なくなったため、市民が堤防の整備を求めることはなくなったと考えられる。多摩川の沿川には資産が集中しているので、洪水が起きる前に、国土交通省が先に整備を進めている状態だという説明がありました。

続いて元永所長(京浜河川)より「洪水を災害にさせないための整備はある程度の水準まで上がってきているが、多摩川は元々暴れ川で、洪水は今川の中に閉じこめられている状況である。しかし近年川の近くに街ができて資産が集中しており、大水が出て堤防を越える可能性がある中、堤防を山のように高くするのではなく、あるところの堤防の高さで抑え、それを越える水のエネルギーを、堤防高の30倍の長さの緩やかな勾配で吸収することで、壊れない堤防整備という観点から、スーパー堤防事業が生まれました。」といったお話がありました。また、スーパー堤防はある程度資産のある下流域を整備するもので、日本では利根川、江戸川、荒川、多摩川、淀川、大和川の下流域がスーパー堤防整備区間であることも説明がありました。

今回のセミナーを通して、(1)超過洪水をどの程度認めるか合意形成が必要であること。(2)堤防に頼りすぎない川づくり(流出の抑制)について議論を深める必要があること。(3)スーパー堤防以外の方法を含め



て、みんなでどうやっていったらよいのか考える必要があること。を確認できました。

また、TBネット代表の中村文明さんから、「もっと流域で多摩川を考える必要があると思う。自分たちの家に雨水をためるなど、自分たちの身近なことで何ができるかということも含めて、これからの10年間の水害のあり方を考えていきたい。流域の視点に立った議論を深めていくことでより良い解決が見つかるのではないかと思う。スーパー堤防についても、効果的な反面、整備に時間がかかることなど見てよくわかった。こういった機会を通して、共有認識がひろがることを願っています。」と、今日のセミナーのまとめがありました。



最後に、京浜河川事務所元永所長から、今日のセミナーを通して、河川管理者である京浜河川事務所の考え、毎日行っていることを、“見える化”してわかりやすくみなさまにお伝えしなければならないと思った。利水のために作られた小河内ダムに洪水を一旦貯めて、下流に流したこと。鶴見川では、遊水池をつくって水を溜める取り組みもしていること。このようなことを、みなさまにお伝えして、さまざまな考え方や方法、そのときのメリット、デメリットについて議論していきたい。10年前の河川整備計画策定時にも、このような議論がされていたのだと思う。その議論を再び行い、今後の川づくりに活かして行ければと思う。とあいさつがあり、第34回多摩川流域セミナーは幕を閉じました。

No	分類 1	分類 2	質問・意見・提案	回答
1	質問	災害の対策	羽田レンガ堤を見て、大いなる災害が起こらないと対応が進まないものなのか。	昔の治水対策は、過去に起きた最大の洪水を流す計画で整備を行ってきましたが、昭和 50 年にある一定規模の確立の洪水を想定した工事実施基本計画を策定し、整備を行ってきました。現在は、多摩川河川整備計画で位置づけられている治水対策を計画的に進めているところです。また、近年の地球温暖化やゲリラ豪雨などの問題にも、的確な情報提供等のソフト対策を進め、被害の最小化を目指して行きたいと考えております。
2	意見	総合治水	・総合治水の必要性が高まる中、今後の治水のあり方をもっと流域の視点で深める必要があると思う。	ご意見をどうもありがとうございます。 京浜河川事務所が管理を行う鶴見川では、総合治水に取り組んでいます。多摩川においても、流域で生活する人々と一緒に総合治水を含めた治水対策を考えていくために、まずは現状を市民の方々にお伝えしていかなければならないと考えています。今後ともみなさまのご協力をよろしくお願い致します。
3	感想	治水	・多摩川のような大河の流域に住んでいる人々にとって堤防は切実な問題であることがよく理解できた。	ご感想をどうもありがとうございます。
4	感想	治水	・近代日本産業の振興に伴い、多摩川流域は大産業地となり河川の護岸対策は住民、地方行政体、県、国のそれぞれのレベルでさまざまな問題をその時代時代で提起してきたことも理解できた。	ご感想をどうもありがとうございます。
5	感想	治水・歴史	・昔も今も川の近隣に住む住民は洪水に悩まされて、治水対策として堤防がつくられてきた。	ご感想をどうもありがとうございます。
6	感想	堤防	昔の構造物はその時代を感じずるものがある。現代のものにはそういったものがあまり感じられない気がする・ゆとりなども必要ではないだろうか。	ご感想をどうもありがとうございます。
7	質問		防潮堤について、川崎側にあるか、なければその理由。	川崎側にも防潮堤があります。整備計画では、川崎側(右岸)0k～5.6k が高潮堤防などを整備する区間となっています。
8	質問	有吉知事の処分	有吉堤製作決定をした有吉知事が懲戒処分される・なぜ処分されねばならなかったのか。住民の訴えを聞き、それに答え有吉堤製作をした有吉知事の処分。	当時、国が行うべき築堤工事を、地方の県知事が行ったため河川法違反とされて懲戒処分となりました。
9	感想	治水・歴史	・有吉堤の話はとても興味深く、もっと長島先生の話を知りたい。とく有吉氏が市民の声を聞き、現場に行き、その状況を見たところだ。	ご感想をどうもありがとうございます。
10	感想	治水・歴史	・私は床下浸水までしか体験はなく、洪水でも直接的被害の経験はないが、2004年、新潟の水害には直後に見に行きの悲惨な状況を見た。	ご感想をどうもありがとうございます。
11	感想	治水・歴史	・防いであたりまえのように思われがちだが、堤防の重要性は今回の見学で再認識できた。	ご感想をどうもありがとうございます。

No	分類1	分類2	質問・意見・提案	回答
12	感想	治水の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水や水害をのりこえ、より安全(性)を求めて完成した。先人の苦労や闘いの苦労をしのぶ痕跡を残し、伝承していくことに努めたいと思った。温故知新が未来へ進む力になると考えるから。水とのたたかい、治水と利水にはその時代を反映している、そのことを考えると興味深い。 ・思わぬケガに皆様のご心配、お声掛けに感謝しています。 	ご感想をどうもありがとうございます。
13	感想	レンガ堤防	・レンガ堤防はどういう意味なのか？と思ってきましたが、実物を見るとおもしろい技術であることがよくわかりました。文化的な価値があると思います。	ご感想をどうもありがとうございます。
14	感想	歴史 スーパー堤防	<p>平間で生まれ育ち、現在も平間に住んでいますが、地元の事でも全く知らない事ばかりでした。母から曾祖父が多摩川の洪水で亡くなった事を聞いた事がありましたが、現在の安全な多摩川があるのもこのような歴史があつての事だと知る事ができました。</p> <p>スーパー堤防のところも桜の景観が変わってしまつて残念に思っていました。意味するところも理解する事ができました。</p>	ご感想をどうもありがとうございます。
15	意見	情報の可視化	堤防の果たす役割はきわめて重要である。昨今ゲリラ豪雨も予想される中、過去の洪水時の水位など、もっと可視化したらいい。	ご意見をありがとうございます。 過去の洪水時の水位を含め、今後の洪水時の情報提供について工夫していきたいと思います。
16	感想	セミナー内容	今回は下流域の設備の一端をうかがい知る良い機会となりありがとうございます。また、今回見られなかったスポットも多いと思いますので是非企画していただきたい。	ご感想をどうもありがとうございます。 これからのセミナーの企画の参考にさせていただきます。
17	感想	名所	普段見られない場所でよい参考になりました。各箇所に案内板などがあれば今後の参考になります。以後の企画を期待します。	ご感想をどうもありがとうございます。
18	感想	スーパー堤防	スーパー堤防を一つ見せてもらいましたが、防災上も環境上からも進展させるべきものと考えられますが、実施された長さはまだ少ないと思われます。計画をさらに強気に押し進めてもらいたい。	ご感想をどうもありがとうございます。 沿川自治体と連携し、事業を推進していきます。
19	感想	スーパー堤防	スーパー堤防という意味がよくわかりませんでした。説明を聞き実際に現場に行ってみてよく解りました。	ご感想をどうもありがとうございます。
20	感想	スーパー堤防	スーパー堤防はかつてよりは理解が進んできているように思いました。とはいえ、それだけでは片づかない問題も多く、総合的な新たな制御が必要な時代になったとの感を強くしました。	ご感想をどうもありがとうございます。 今後もセミナーなどの機会を通して、流域のみなさまと一緒に良い治水のあり方を考えていきたいと思っています。今後ともみなさまのご協力をよろしくお願い致します。

第34回 多摩川流域セミナー 「多摩川の川づくり総点検！第一弾!!」 ～ 多摩川の堤防 今・昔 ～

No	分類1	分類2	質問・意見・提案	回答
21	質問	スーパー堤防	スーパー堤防について、現時点の実績と計画の数値も参考に知りたい。	スーパー堤防が計画されている区間は、重要度から推奨区間と候補区間の2つの区間に分けられます。 <推奨区間> 対象延長は、27.7km、そのうち平成21年度に整備が完了または実施されている延長が4.5kmです。(整備率約16%) <全体> 対象延長は、82.5km、そのうち平成21年度に整備が完了または実施されている延長が7.1kmです。(整備率約9%)
22	質問	スーパー堤防	しかしながらスーパー堤防整備の効果がいまいち理解できない。スーパー堤防と従来型の堤防のつぎはぎの効果はどうなるのであろう。多摩川の流速制御と堤防作用の相関はどうなのであろうか。	スーパー堤防事業は、大都市地域の大河川において、計画規模を超える超過洪水に対して破堤による壊滅的な被害を回避するための事業で、昭和62年に創立されました。(多摩川、利根川、江戸川、荒川、淀川、大和川 計5水系6河川のみ) 幅の広いスーパー堤防の整備を都市整備事業と一体となって行うことで、超過洪水や地震に強く水辺空間と親しめるまちづくりが出来ます。スーパー堤防が整備されたところは、確実に安全性が高まります。また、流速制御については、侵食されないよう護岸を設置しています。
23	感想	セミナー運営	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもおもしろかったです。長島先生のお話もとてもよかったですので、改めてお話を幅広く聞く機会があるとよいですね。 ・下流部にはあまり来る機会がなかったので、こうしてご案内いただけるとよくわかります。もう少し下流についての情報を得るようにしたいと思います。 	ご感想をどうもありがとうございます。
24	感想	感想	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川流域に居住(高津区北見方)し休日などにウォーキング、サイクリング等に河川敷、堤防などを利用し心身の回復に役立っている。 ・梅雨かつ台風シーズンの6～9月の多摩川流量増水に堤防破壊を危惧しておりましたが先人の問題意識を持って取り組んだ姿勢に敬意を表したい。 ・今回の多摩川流域セミナーに参加して多摩川に関心を持って暮らしていきたい。 	ご感想をどうもありがとうございます。
25	意見	セミナー運営	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川セミナーについて、是非多くの方が参加してほしい。 	ご意見をありがとうございます。 流域の市民に開かれたセミナーになるように、広報の仕方などを工夫していきたいと思っています。
26	意見	セミナー運営	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画文案の殿町スーパー堤防、大師河原防災ステーションの見学ができなかったのが残念。 ・もう少し時間配分を配慮すれば1箇所の見学は可能ではなかったか。 ・質疑応答の時間が足らなかった。 	ご意見をありがとうございます。 バスをつかっただけの団体行動ということで、見学箇所を減らしても、現地見学の時間が押ししてしまいました。 その結果、ディスカッションの時間が短くなってしまったことは残念に思っています。今後のセミナー運営には、頂いたご意見や今回の反省を活かして、充実した意見交換ができるようにしていきたいと思っています。

第 34 回 多摩川流域セミナー 「多摩川の川づくり総点検！第一弾!!」 ～ 多摩川の堤防 今・昔 ～

No	分類 1	分類 2	質問・意見・提案	回答
27	意見	セミナー内容	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があれば江戸期→明治・大正までの多摩川の水害の実態などをお聞かせいただければと思います。 ・時間があれば小河内ダム建設にともなう湖底の村の住民、特に2・3男は山梨の方へ移住して原野の開拓をしたそうであるが、その実態について中村先生からのお話を伺いたい。 	<p>ご意見をありがとうございます。 今後のセミナーで源流域をテーマに行う際には、参考にさせていただきたいと思います。</p>
28	感想	レンガ堤防	レンガ堤が非常に参考になりました。	ご感想をどうもありがとうございます。
29	感想		参加して大変よかったです。 たまたま、三輪修之著の多摩川の風景を読んでいたので今日参加する機会があった。	ご感想をどうもありがとうございます。
30	感想		私は三年前まで大田区で料亭をやっていたので、大田区内を走っていただき非常に懐かしかったです。どうもありがとうございました。	ご感想をどうもありがとうございます。
31	質問		レンガ堤はコンクリートでは築堤できなかったのか。	多摩川の下流部にある京浜工業地帯には、レンガ製造工場があり、レンガは近くで調達できる材料だったと考えられます。
32	質問		鶴見川のスーパー堤防されている所と計画は。	鶴見川では、スーパー堤防は計画されていません。 スーパー堤防は、利根川、荒川、多摩川、淀川、大和川水系で計画されています。